



## 雪の日ありがとうございました

仲嶺 真弓

1月25日に降ったドカ雪は、つばさに来るまでの道のりも路面凍結がひどく、私も含め保育園に辿り着けない職員も多かったのですが、さくら連絡網で状況をお知らせしたところお休みしていただけたご家庭が多くいて、いつもより少ない職員でも、無理なく保育利用必須家庭の保育ができ、とても助かりました。ありがとうございました。

## 節分行事

節分の季節がやってきました。今年も各クラスで子どもの成長に合わせて節分行事を取り組んでいます。昔からある日本の伝統行事である「節分」の由来や意味を大切に、この行事を通して子どもたちに何を伝えたいかを考え取り組んでいます。ただ“鬼は怖い”だけで終わるのではなく、絵本を利用して、自分の中にも鬼（邪気）がいることを知り、その鬼（邪気）を節分の日によってくる鬼がとりに来てくれる。勇気をだして自分で豆をまいて鬼（自分の中にある邪気）を追い払おう。そんな思いを込めて取り組んでいます。子どもたちにとっても自分について客観視できる機会でもあると考えています。もちろんそんな高度なことができるのは4・5歳児でも難しいことではありますが、自分について考える体験を大切にしています。2・3歳児は鬼のことを知る取り組みなどを行っています。0・1歳児は鬼と出会う初めての体験を大切にしています。

節分当日は子どもたちを怖がらせることが一番の目的ではなく、怖いならどうするか子どもたちと考えてバリケードを作った年もありました。怖がる子が多い年には、鬼の立ち入り禁止区域を設ける工夫や、怖がる子には職員がそばにつくようにするなどの配慮をしています。鬼と初めての出会いとなる0・1歳児は、鬼の室内侵入は全面禁止で、戸口でのパフォーマンスだけにしています。2歳児からは、室内に侵入してもいい範囲を少しずつ広げ、鬼に頭をなでてもらうなどしてもらい、保護者と相談の上、鬼に抱きかかえて、つれて行かれそうになる子や職員の場面も行事の一コマとして取り組んでいます。子どもたちが勇気を出して鬼に豆をなげ、助けにいこうと声をかけると、日頃は物静かな子が思わぬ力を発揮したり、反対に日頃はやんちゃ・おてんばさんが部屋の隅っこでじっとしていたり、案外に鬼の体は赤なのに、首は肌色だったという子もいて、いつもは気付かない子どもたちの意外な一面を知ることができる機会でもあります。



子どもたちにとって大騒動になる節分行事は、家とは違って子どもたち自身が友達と怖い気持ちも共感し、同じ場面を共有できる生活の一場面です。共感、共有した体験は卒園後にも繋がっていて、卒園児に思い出話を聞くと必ずといって出てくるのが節分で、「節分、怖かったでなあ。」「〇〇は鬼に連れていかれたでなあ。」「〇〇助けてくれたでなあ」などなど、話しながら大笑いしている卒園児の姿を目にします。その姿に出会う度、やはり保育園だからこそできる節分行事を大切にしていきたいと思うのです。

ぜひ、一度考えてみてください。子どもが怖がるからと言って休ませるのではなく、子どもの体験として見守ってほしいと思います。